

へしきや
平敷屋地区地域水産物供給基盤整備事業 ～モズク流通拠点の機能強化～

位置図

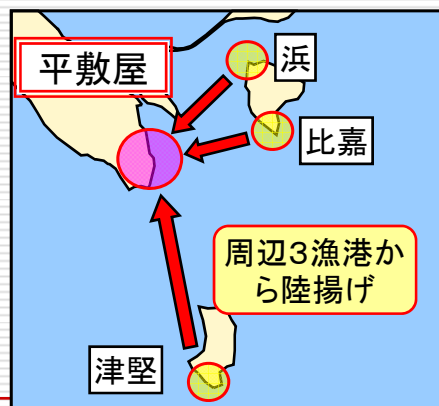
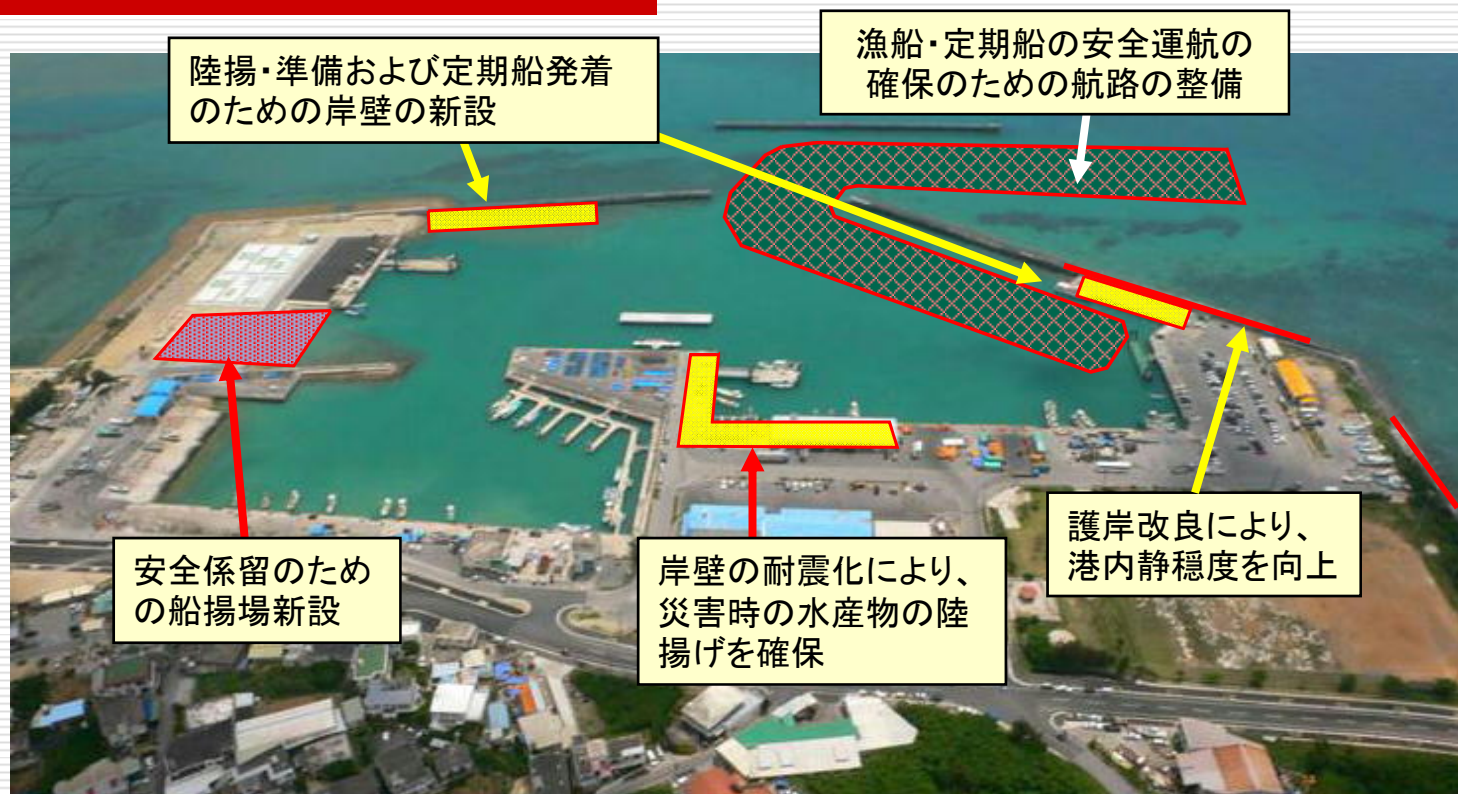
沖縄県



平敷屋地区

■モズク養殖が盛んに行われ、水揚量は全国1位
■津堅島への定期航路があり、生活・観光港としての役割

事業主体： 沖縄県
総事業費： 1,710百万円
実施期間： H21～H25
B/C=1.37
B=2,104百万円
C=1,535百万円



モズク陸揚時は岸壁が混雑



陸揚岸壁の不足により港内で陸揚待ち

へしきや
平敷屋地区地域水産物供給基盤整備事業 ～モズク流通拠点の機能強化～

課題

○係留施設が不足しているため、水揚げの混雑や待ち時間の発生

・モズク養殖関連作業に時間を要している

・水揚げにあたり粗悪品を選別する時間が確保できず品質にばらつきが生じている

○観光への需要増加を背景に定期船が大型化しているが、安全に乗船できる係留施設が整備されていない

整備による直接効果

○係留施設を整備することで、混雑や待ち時間が解消

・モズク養殖と兼業の漁船漁業等の操業時間が年間2割程度増加することが見込まれる

・粗悪品を選別することが可能となり、品質の安定したモズクの供給により、単価が80円/kgから150円/kgに向上することが見込まれる

○定期船の円滑な運航が可能となり、地元の観光振興と相俟い、観光客の5%程度増加が見込まれる

直接効果額

・漁船漁業等の増加による生産額増加効果
年間16.3百万円

・モズクの品質安定による価格向上効果
年間59百万円

・観光客の増加による宿泊費等の増加効果
年間32百万円

計107.3百万円

へしきや
平敷屋地区地域水産物供給基盤整備事業 ～モズク流通拠点の機能強化～

直接効果をもとに、沖縄県中部泡瀬圏域の産業連関表を用いて、経済波及効果を算定

